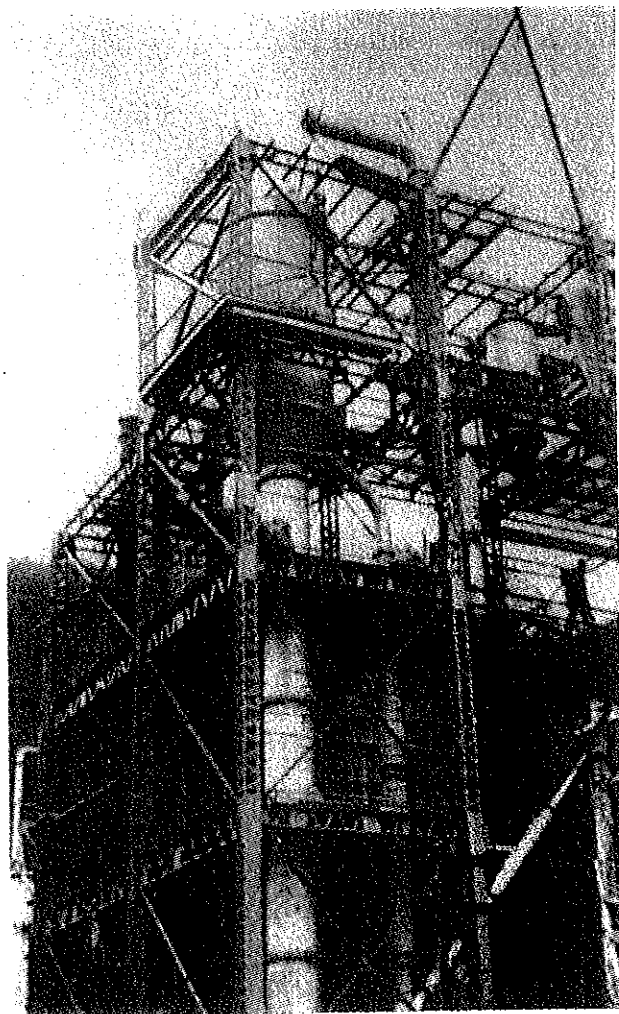


## アセトアルデヒド<sup>せいそう</sup>製造プラント



建設中のアセトアルデヒド製造プラント

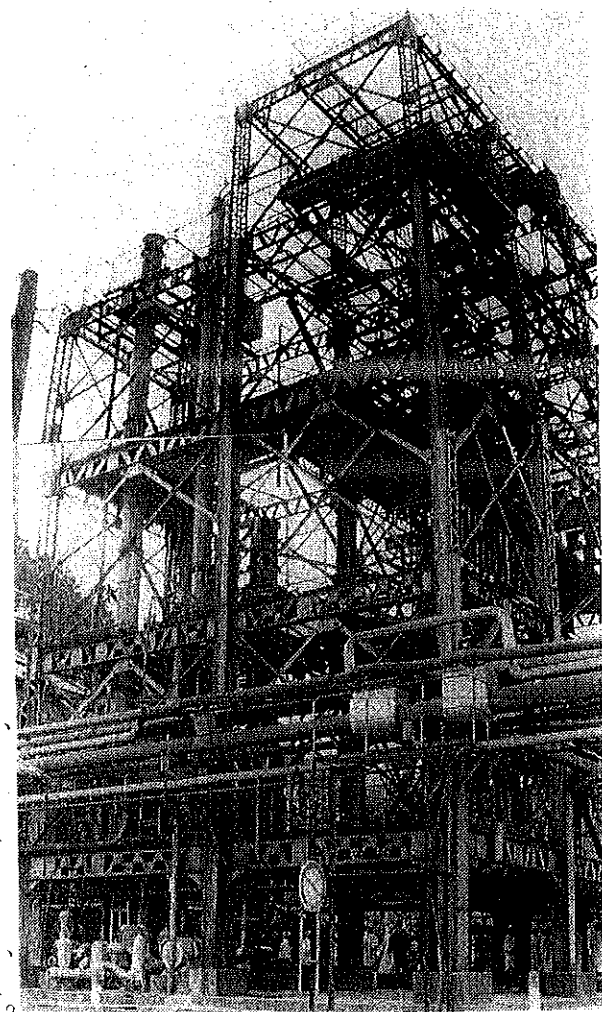
昭和電工は、熊本水俣病の被害発生をしりめに、このプラントを増設して生産を拡大してきました。

右の写真は昭和42年10月18日、新潟地裁の鹿瀬工場検証の際に撮ったものです。事件公表後、鹿瀬工場では本社の指示で早々にこのプラントを撤去し、さらにアセトアルデヒドの製造工程図を焼却するなど悪質な証拠隠滅をおこないました。昭和電工はこのプラントを撤去したのち、農薬説を持ち出して原因論争を行なったのです。

左の写真は昭和電工の月刊誌「しょうわ」(1959年5月号)に載っている鹿瀬工場のアセトアルデヒド製造プラントです。

昭和32年5月、昭和合成化学工業を吸収合併した昭和電工は、鹿瀬工場の有機部門を強化する方針を打ち出し、アセトアルデヒドの大増産をめざして新鋭のプラントを建設し、このプラントは昭和34年春から同40年1月まで稼働しました。

プラントは全ステンレス製で直径約1m、地上17mにおよぶ円筒型のもので、アセトアルデヒド月産600tの能力のものでした。



昭和40年中に反応プラントは完全に撤去された